

「第24回 米・食味分析鑑定 コンクール：国際大会 in 小諸」 を開催しました。

農林課 農業ブランド振興係



大会結果



12月2日(金)・3日(土)、小諸市文化センターにて「第24回米・食味分析鑑定コンクール：国際大会 in 小諸」を開催しました。コロナ禍で3年振りに有観客で開催した本大会には、2日間で全国から約3,000人の来場があり、国内外から5,280点のお米が出品されました。その中から清水 房雄さん(小諸市宮沢)の栽培米が見事最高金賞18点に選ばれたほか、栽培別部門で2名、小学校部門1校(野岸小学校)の入賞がありました。

「小諸の米」のブランド化

小諸市は、浅間山の南傾斜面に位置し、中山間地を抱えるため、大規模な農業経営が難しいと言う側面をもちます。全国にお米の産地として有名な、平野で大型機械を導入している産地と比較すると収穫量に差があり、小諸市がお米の一大産地となるには障壁があることが事実です。しかし、小諸の地でしか得られない自然と熱心な米生産者の努力により、非常に質の高いお米が栽培できることが利点であり、これをいかに全国の消費者へ訴えていくことが課題となっていました。そこで市では、2017年から「komoro agri shift プロジェクト」として、“土”に着目して他産地との差別化を図る「農のブランド化事業」に取り組んでおり、米・食味分析鑑定コンクール：国際大会は、全国初のこの取り組みを力強く対外的に発信するための絶好の機会となりました。

今後の取り組みについて

大会を一過性のイベントとすることなく、生産者の意欲や技術の向上、地域で生産されるお米の魅力を住民が知り意識が変わること、関係者の連携などをレガシーとして残すことも大変重要なことだと考えています。具体的には、大会誘致を契機に、小諸市独自で小諸市産の米の認証制度をつくり、基準を満たしたお米を一般流通より高値で直売所等で売り出すなど、農家の所得向上につながる事業に取り組んで参ります。

